

# 皆伐だけの林業から適地適伐の戦略的森林経営への転換を目指して 南那珂森林組合 串間事業所

## 森林データベース構築による高付加価値材の生産と森林管理

優良な国産木材の安定的供給のため、森林所有者に対し、施業内容やコストを明示する提案型施業に必要なGISが注目を集めている。南那珂森林組合ではGISの活用による持続可能な森林経営の挑戦が始まっている。



江藤 祐樹 氏



### PROFILE

組織名：南那珂森林組合 串間事業所  
住 所：〒888-0004  
宮崎県串間市大字串間2324-1  
問合せ先：江藤 祐樹 氏  
電話番号：0987-72-0259  
URL：http://www.kushima-shinrin.or.jp/  
e-mail：yu-ki@kushima-shinrin.or.jp

使用製品  
ArcView

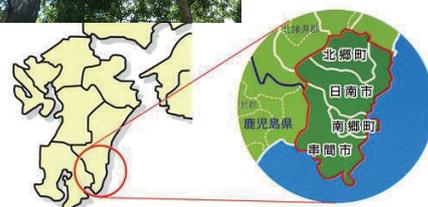
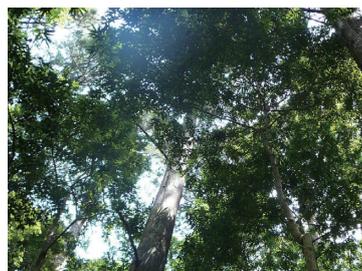
### ■イントロダクション

日本の森林面積は約2,500万haで、国土の約2/3を森林が占めており世界的にも森林率の高い国と言われている。国有林と民有林に大別される日本の森林は法律により減少することなく地元の自治体や森林組合などによって管理されている。一方、需要量のうち日本で生産された木材の占める割合である自給率は20%程度になっており、加工外材の輸入増加や国内で進む森林管理者の高齢化や過疎化などが国内木材の間伐と利用の低下の原因になっている。間伐の推進のためには、森林所有者個人が持つ小規模な森林を、周囲の森林とまとまりを作る(団地化する)ことで、コストを抑えた効率的な森林整備(施業・経営の集約化)を行うことができると考えられている。そんな中、林野庁では10年後の自給率50%向上実現のため平成21(2009)年12月に「森林・林業再生プラン」を掲げて日本の森林・林業の再生を目指している。この中で森林組合は、森林所有者に対し、施業内容やコストを明示する提案型施業の普及及び定着を促進することにより持続可能な森林経営実現に貢献する林業事業体として期待されている。

### ■南那珂森林組合

南那珂森林組合は、平成13年10月に宮崎県最南部に位置する自然豊かな地域に発足した森林組合で「飢肥杉(オビスギ)」と言われる江

戸時代からの歴史ある優良杉を供給している。この飢肥杉は、油分が多く弾力性のある特徴から良質な造船材としてかつて発展し賑わったが、今ではその需要もなくなり、この強靱な特性を活かした建築用材などへの展開が求められている。管内の森林面積は65,000haで、その内、民有林の面積が35,000haでスギを主体とした人工林率は76%にも及び、この内の60%が現在収穫可能な段階を迎えており、森林組合では高齢化が進んだ森林所有者に代わって、いかに効率的な森林管理を行うかが課題となっている。南那珂森林組合の江藤課長は言う「昔は山主さん自身が山を知っていて、境界がわからないということはありませんでした。しかし、今では山を知らない山主さんが増えていきます。先代から聞いていても実際に山に入ると、木が育っていて昔と風景が違ってわからないということもあります。山の管理をしていくには、森林組合が山林の情報を管理していくべきだ」という考えに基づきGPSによる境界測定に取り組んでいます。当組合では、境界を確定するだけではな



飢肥杉と南那珂森林組合管内

